

安来市立伯太中学校だより

Challenge! 考え行動する伯中生

独立 協力 技術

学校教育目標「**自己を見つめ、他者と協働し、未来を拓く生徒の育成**」

令和5年4月20日号



令和5年度がスタートしました

今年度、新たなスタッフが5名着任し、4月10日に令和5年度がスタートしました。



始業式では、今年度新たにした学校教育目標・スローガンと、教職員をふくめ全校で心にとめたいことについて話しました。

【令和5年度学校教育目標】

「**自己を見つめ、他者と協働し、未来を拓く生徒の育成**」

【スローガン】

「**Challenge! 考え行動する伯中生**」

学校目標については、校訓や、育成する資質・能力と関連しています。自分自身をコントロールし、人の力も適切に借りながら、自分の意思で一歩一歩世の中を歩んでいける力をつけていくことを意識してほしいと思います。

みなさんはこれから、今よりもさらに予測困難で変化の激しい未来を生きていくことになります。

社会の中でよりよく生きていくためには、「**考え行動する=自律する**」力を身につけていく必要があります。今年度伯太中では、このことを生徒・教職員・保護者が心にとめ、互いに考え行動し、よりよい伯太中学校をつくっていきたいと思います。教育目標とスローガンの他に、次の変更点についても説明しました。

1. チャイムの変更

朝(8:25)と昼(5校時開始5分前)の2回になります。時計を見て、5分前行動を心がけてください。これは、考え行動する力の育成につながることでありますが、合理的配慮(障がいのある人が、ない人と平等に社会の中で過ごしていけるように、必要な調整や変更を行うこと)の一環でもあります。

2. 生徒が「自ら学ぶ」しくみづくり

一斉教授型授業は減らし、自分で考え、実行できる場面を増やしていきます。AI型教材を取り入れ、自分に合った問題に取り組める機会も増やします。

3. テストの変更

授業で学んで、十分練習して、小テストや単元テストで力だめしをして、それでわからなかったところをトレーニングして、期末テストや学力テストで定着したかを診断する、という流れで学力の育成を図っていきます。「中間テスト」は行いません。

4. 宿題

一律押し付け型の宿題は、出さないようにしていきます。**家庭での学習は、わからないところをわかるようにするためのもの、自分が追究したいことに取り組むもの**という本質に立ち返ってのことです。

勉強は、長時間やることや量をこなすことが目的ではありません。宿題を出すと、できる人は全部やり、できない人はわからないところを飛ばしたり、答えを写したりします。それでは力はつきません。宿題を出せば出すほど、提出することが目的になってしまいます。中3になると、受験を意識して、それに備えるために、自分に必要なところを勉強したい、と思っても、一律の宿題が出ると、それがさまたげとなって自分のやりたい勉強ができない、という場合が生じます。

1日はとても短いです。自分で考え、自分を高めるために使える時間を増やしてほしいと思います。

ただ、**毎日、自分のわからないところをわかるようにするとか、できないことをできるようにする取り組みは、短時間でもいいので必ず行ってほしいです。**



5. 生活ノート『新しい一日』の様式変更

自分の時間を自分で考えて有意義に使うために、今年度中身を新しくした「新しい一日」を活用してください。これには、連絡事項だけでなく、自分に必要なことをメモします。

授業でわからなかった内容をメモしてもいいし、その日取り組みたい筋トレのメニューや読みたい本をメモしてもいいと思います。

『**新しい一日**』は、**自分のためのもの**なので、教師に提出することを目的としたものではありません。



でも、みなさんの日々のチャレンジや、つぶやきを週に1度は先生と共有してほしいと思います。

毎日提出したい人はもちろん毎日提出してもOKです。

いろいろな変更について説明しましたが、私は、最初から全てうまくいくとは思っていません。「教える」型の一斉教授的な指導を長年経験している生徒・教員・保護者にとっては、自律型の生活へのシフトに時間がかかると思います。大人も子どもも、誰もにとって大きな「チャレンジ」です。

そこで、生徒のみなさんをお願いします。

1. うまくいかなかったり、困ったりしたときには、大人を頼ってください。一緒に考えます。
2. 伯中で過ごすみんなが幸せになるように、自分で考えてどんどん実行してください。また、そうして実行している人を、からかったり、冷やかすことなく、応援したり、一緒に実行したりしてください。

大人も子どもも、共通の目的「考え行動する(=自律する)力をつけて、社会の中でよりよく生きることができるようになる」に立ち返って考え、行動していたらと思います。

今年度は、次の研究指定等を受けています。

◆第55回中国放送教育研究大会 実践発表校
10月20日(金)(オンライン、アルテピア)

◆第71回少年の主張安来市大会 主管校
8月29日(火)わかさ会館



◆令和5年度Eネットはくた
(伯太ブロック小中連携推進会議) 会長・事務局校

◆令和5年度学警連伯太ブロック 会長・事務局校

お知らせ

児童虐待に関する学校の対応について(安来市)

小・中学校では、子どもの安全・安心が疑われる次のような場合に、児童相談所または市役所に通告することが義務づけられています。虐待の判断は児童相談所や市役所が行います。

【児童虐待とは?】

- ▶**身体的虐待** なぐる、ける、たたく、投げ落とす、激しくゆさぶる、やけどを負わせる、おぼれさせる など
- ▶**性的虐待** 子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など
- ▶**ネグレクト** 家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など
- ▶**心理的虐待** 言葉によるおどし、無視、きょうだい間での差別的あつかい、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう など

虐待を受けたと思われる子どもがいたら、子育てに悩んだら・・・
児童相談所や市役所の相談窓口へ



対面式（4月12日）

新入生を歓迎し、新入生が円滑に中学校生活スタートできるようにすることを目的として、対面式を行いました。

生徒会長あいさつ、生徒会専門委員会の説明、応援団の説明、部活動紹介、新入生代表あいさつ、生徒会副会長あいさつ がありました。

今年も、寸劇による「良いあいさつ」と「良くないあいさつ」についての説明など、わかりやすい説明がなされていましたが、盛り上がったのは部活動紹介でした。

2・3年生は、入学してから実演をまじえた部活動紹介を経験したことがありませんでしたが、新入生の興味を引く、工夫された紹介を行っていました。

自分たちが工夫してやり遂げた、生徒の喜びの表情は、頼もしさを感じさせるものでした。



1年生にとってわかりやすくなるよう、各部とも工夫して説明していました



個別最適な学び・協働的な学びを一体的に

生徒一人ひとりに応じた学習活動や、学習課題に取り組む機会を提供するとともに、生徒一人ひとりの学習進度や到達度に応じた教材等を提供し、学習が最適となるような取組を行っています。

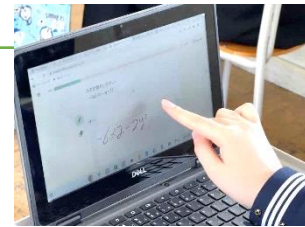
今回は、取組の一環として導入した、AI教材 Qubena（キュベナ）について紹介します。前年度、本校は安来市が指定を受けた「しまねの学力育成プロジェクト事業」（県事業）の研究協力校となりました。調査に協力した第1学年の生徒に対し、市より学習eポータル・AI型教材のサービスが提供され、約3ヶ月間利用しました。

令和4年度入学生は、卒業までこのサービスを受けることができます。今の2年生は、この教材を使用しながら、自分に必要な学びを自分で進めていくことに慣れつつあります。

今年度は、1・3年生もAI教材を使用して授業での問題演習や家庭での学習に取り組めるよう、導入しました。



AI教材の良い点は、AI（人工知能）が一人ひとりの間違いの原因を解析し、個別に最適な問題を出題してくれる点です。基礎から応用まで、自分のペースで多様な問題に取り組むことができます。



対応している学年と教科は次の通りです。

- 小1・小2：国語、算数
- 小3・小4：国語、算数、理科、社会
- 小5・小6：国語、算数、理科、社会、英語
- 中1～中3：国語、数学、理科、社会、英語

実際のノートと同じように手書きで入力することができ、「定規・コンパス・分度器を使った作図」や「関数のグラフ作成」にも対応しています。

生徒が解いている問題、解答時間、正答率などの学習データは、リアルタイムで収集・分析されます。授業中の問題演習やテストだけでなく、家庭で取り組んだ分も記録されます。

教師は、演習、テスト、宿題などを、Qubena上で作成し、生徒に配信することができます。

Qubenaは、アプリやソフトのインストールは必要なく、普段インターネットでWebページを見るのに使っているウェブブラウザ（Chrome、Edge、Safari）で操作できます。

先週はじめて使い始めた3年生のうち、すでにこの土日に家庭で社会の問題に447問取り組んだ生徒がいました。

学校からのおたよりは、生徒のみなさんが読んだら必ず保護者の方に渡してください



令和5年度

安来市立伯太中学校 スクールビジョン

～日^パ出る中学校 教育の光は伯中から～

学校教育目標 「自己を見つめ、他者と協働し、未来を拓く生徒の育成」
校訓 「独立 協力 技術」

スローガン

めざす姿

Challenge!

考え行動する伯中生

- よりよく生きていける力が育つ学校
- よりよい社会をつくるための方法を共に学ぶ学校

- 自律を学び、自己解決力を高める生徒
- 目的意識をもって行動する生徒・教職員
- 他者と合意形成し、協働する生徒・教職員
- 挑戦し、自己の可能性を高める生徒・教職員
- 生徒の自己決定の機会を大切にす教職員

自己を調整する力

- ① 自己を理解する
- ② 感情や行動をコントロールする
- ③ 見通しをもって計画的に行動する
- ④ 目的と優先順位を考える

他者と協働する力

- ① 適切に援助を求める
- ② 多様性を理解する
- ③ 目的の合意を形成する
- ④ 対話し、課題を解決する

言語や情報を 使いこなす力

- ① 自分で物事を考える
- ② 言語と技能をみがく
- ③ 信頼できる知識や情報を集め、活用する
- ④ 目的と他者を意識してアウトプットする

未来を拓く力

自分のよさや可能性を認識し
他者と協働しながら
さまざまな社会的変化を乗り越え
豊かな人生を切り拓き
持続可能な社会の創り手となる
人材の育成

自己決定の経験を探み、
自分で考えて行動する力
(＝自律する力)を備える

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する

- ① **個別最適な学びの充実**
指導の個別化 ……一人ひとりの特性や学習進度・到達度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う
学習の個性化 ……一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、学習が最適となるよう調整する
- ② **協働的な学びの充実**
探究的な学習や体験活動等を通じて、他者の考え方や感性にふれ、深い学びにつなげる

ICTの活用

多様性の尊重

地域の教育資源を
活用した活動

特別支援教育の 推進

- ユニバーサルデザインの視点からの教育環境整備
- 一人ひとりの教育的ニーズの把握による適切な支援
- 合理的配慮の提供
- 教員相談、教育相談の充実

チャレンジ、
トライアル&エラー
できる環境づくり

- セルフPDCAの推進
- 自己決定が許される環境づくり
- 主体性の尊重

家庭や地域社会との

「連携」・「分担」による

人材育成、よりよい社会づくり